

別紙 2

オウム真理教（教団）の活動状況

1 教団の概要

(1) 主流派及び上祐派について

教団は、麻原彰晃（以下「麻原」という。）に対する絶対的帰依を明示的に強調する主流派（「Aleph」、「山田らの集団」など）と、麻原に絶対的に帰依しながらも、外形上、麻原の影響力を払拭したかのように装い活動する上祐派（「ひかりの輪」）に分かれて活動している。

(2) 信徒数

現在、教団は、国内に約1,650人の信徒を擁している。特に、主流派は、組織的な勧誘活動を積極的に展開することで、毎年100人程度に上る新規信徒を獲得している。

(3) 教団の資産

教団の資産（現金・預貯金・貸付金）については、平成31年2月末時点における総額が約12億9,400万円である。教団の資金源は、在家信徒を対象とした「集中セミナー」など各種イベントの参加費や布施によるものであり、これらの資金を継続的に獲得することで、多額の資産を保有する状況にある。

(4) 教団の施設

国内における教団の拠点施設数は、15都道府県に34か所ある。

2 主流派の活動

主流派は、平成30年7月の麻原の死刑執行後も、依然として、「集中セミナー」や麻原の誕生日を祝う「生誕祭」などの各種イベントを開催し、不眠不休で修行を行わせたり、麻原の偉大性を強調する説法を行うなどして、麻原に対する絶対的帰依を扶植する指導を継続している。

また、主流派は、新規信徒の獲得に向けた勧誘活動を組織の重要な取組と位置付け、教団名や宗教色を秘匿しながら、全国的、組織的な勧誘活動に取り組んでいる。

3 上祐派の活動

上祐派は、外形上、麻原の影響力を払拭したかのように装う“麻原隠し”の取組を推進してきたところ、麻原の死刑執行を受けて、各メディアを通じて、改めて麻原からの脱却を強調するな

どしている。

一方で、上祐派は、依然として、麻原と関係のある仏画を施設内に掲示しているなど、今なお麻原の影響下にある実態が確認されている。また、上祐派は、「集中セミナー」を開催して信徒教化を行っている。

以上